

第4学年2組 教科「日本語」学習指導案

日 時 令和8年 10月7日(水) 5校時

場 所 4年2組教室

児童数 28人

指導者 田代 勇平

1 単元名 「方言を楽しもう」

2 単元について

(1) 教材観

方言は、それぞれの地域の風土や歴史、暮らしの中で生まれ、受け継がれてきた言葉であり、日本語の豊かさや多様性を表す言語文化の一つである。同じ意味を表す言葉であっても、地域によって言い方や響き、リズムが異なり、その土地の人々の暮らしや思いが表れている。そのため、家族や友人など親しい間柄や同じ土地の人同士で会話をする場合、方言を使用した方がより一層気持ち伝わるというよさがある。現代の生活においては、聞いたり話したりする機会が少なくなっている方言であるが、共通語では感じられない親しみや温かさ、面白さを感じられることが方言の魅力である。本単元は、日本各地の特色的な方言について調べ、班ごとに「おすすめの方言クイズ」を作って楽しむ活動に取り組む。これによって、日本語の豊かさや地域文化のよさを実感することができる教材と考える。

(2) 児童観

本学級の児童に、方言についてのアンケートを行った。「方言」について、クラス全体の40%が意味を知っており、60%が「言葉は知っているが、意味は知らない」「言葉を知らない」と答えている。方言の具体例を挙げ、聞いたことがあるかのアンケートを行うと、
『そいぎ』…48% 『はらかく』…45% 『ぬっか』…35% 『とととと』…31%
という結果になった。

方言について聞いたことがある児童が多い一方で、方言を使っていると答えた児童は30%だった。しかし、実際には「～けん」「～せんといかん」「～したと？」など、語尾に方言を使っていることが多いが、それらを「方言」として意識している児童は少ない。祖父母と同居している児童が少ないため、昔ながらの佐賀弁を聞いたり話したりする機会がほとんどないことが、その一因であると考えられる。方言に対しては、「面白い」「聞いたことがある」など、興味を示す児童が多い。

学習には意欲的に取り組む児童が多く、動画作りやクイズ、寸劇などの体験的な活動にも、友達と協力しながら楽しく取り組むことができる。しかし、みんなの前で自分の考えを伝えることにためらいを感じる児童が多く、「伝えたい」という思いはあっても、思い切って表現することができないことが課題である。また、少人数での話し合い活動では、自分の考えを伝えることはできるものの、友達の考えのよさを認めたり、互いの感じ方の違いを受け止めたりしながら、自分の考えを深めることについては十分ではない。

(3) 指導観

本単元では、佐賀の方言だけでなく、全国の方言に広げてそのよさや日本語の豊かさに気付かせたい。地域による方言の違いに気付かせるために、北海道、青森、大阪、京都、愛知、高知、広島、

佐賀、鹿児島、沖縄の 10 の都道府県の中から班ごとに 1 つの都道府県を選んで調べさせる。調べた方言の中からクラスのみんなにすすめしたい方言を決め、理由をつけて伝え合わせることで、方言のよさに気付かせたり方言への興味・関心を高めさせたりしたい。班でクイズ作りを進める中で、協働的に学ぶ姿を期待する。

第 1 時ではまず「とても・すごく」を表す方言がたくさんあることに気付かせ、日本各地の方言に興味をもたせる。その後、教師による方言クイズを行い、単元のゴールを「すすめの方言のよさが伝わるクイズを作って友達に紹介すること」と明確に示し、意欲と見通しをもって学習を進められるようにする。

第 2 時は、班で選んだ都道府県の方言について、各自調べさせる。特徴的な方言の意味や使われる場面を調べ、その中から自分のおすすめの方言を選び、その理由を考えさせる。その後、自分が選んだ方言やその理由を交流し合い、クイズに出す言葉を班で 1 つに絞らせる。

本時では、前時に班で決めたおすすめの方言をもとに、実際の生活場面と結び付けてクイズを作らせる。また、より方言を楽しむクイズにするために見直し、調べた地方の方言を場面に合わせて取り入れさせる。必要に応じて資料やタブレットで意味や使い方を調べさせる。また、使った方言がどのような響きやリズムになるか、実際に声に出して聞き合わせる。最後に、完成したクイズをいくつか紹介し、本時の学びを振り返らせたい。

第 4 時では、作成した方言クイズを出し合わせる。出題する児童は、選んだ方言を実際に声に出したり、使われる場面を寸劇で表したりして、その方言のよさが伝わるように工夫する。答える児童は、方言の響きや場面を手掛かりに意味を考える。

本時の学習では、教科「日本語」授業づくりの 10 の視点のうち、以下の項目に重点的に取り組む。

【授業づくりの 10 の視点⑤ 多様な感じ方を認め合う「協働的な学び」の充実】

班でクイズ作りをする中で、方言を使う場面やどのように方言を使うかについて考えを伝え合い、友達の感じ方や考え方のよさを認めながら、自分の見方を広げたり深めたりできるようにする。よりよいクイズにするために、アイデアを出し合って協働的な学びが生まれることを期待する。

3 単元の目標

いろいろな方言に触れることで、それぞれの地域にある方言のよさや面白さに気づき、方言への興味・関心を高める。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学びに取り組む態度
日本各地で特色豊かな方言が使われていることを知り、それぞれの言葉の意味や響き、リズムの違いに気付いている。	佐賀県の方言、それぞれの地域の方言の響きやリズムの良さを感じ取り、友達と伝え合おうとしている。	各地の方言に触れ、その響きやリズムを楽しもうとしている。

5 指導計画と評価の計画（全 4 時間）

時	学習活動	評価規準（評価方法）○記録に残す評価 ・指導に生かす評価		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	教科書にある「すごい」の方言について調べる。 教師による方言クイズや寸劇を楽しむ。 方言について気付いたことや思ったことをペアで話し合う。 単元の見通しをもち、調べたい地方を決める。 【10の学びの視点①教材との出会い】	・一つの言葉でも地域によって言い方が異なることを理解している。		・地域による言葉の違いに気づき、各地の方言に興味をもっている。
2	選んだ地方の方言について資料やタブレットを活用して調べる。 調べた方言をワークシートに整理し、「おすすめの方言」を決める。（個人） 「おすすめの方言」をクイズ形式で出し合い、班のおすすめの方言を選ぶ。（班活動） 【10の学びの視点④考えの形成・整理】		○方言の響きやリズムのよさを感じ取り、選んだ方言をおすすめする理由を考えている。（ワークシート）	・進んで方言を調べ、その特徴を捉えている。
3 （本時）	前時で選んだ方言が使われる場面を考え、クイズを作る。（班活動） できあがった台本にさらにその地方の方言を使う工夫を考える。（班活動） クイズを出す練習をする。（班活動） できあがった班からいくつかの班のクイズを発表する。 【10の学びの視点⑤共働的な学びの充実】		○方言の響きやリズムのよさを感じ取り、意見を出し合いながら方言クイズを作ろうとしている。（ワークシート・発言）	・友達の感じ方や考え方を認めながら、進んで交流しようとしている。
4	作成した方言クイズを出し合う。 方言の響きや場面を手掛かりに、意味を考える。 単元を振り返り、方言のよさや日本語の豊かさについて交流する。 【10の学びの視点⑥説明・発表する機会の充実】	○各地の方言の言い方や意味の違いに気付いている。	・各地の方言の響きやリズムのよさを感じ取り、友達と伝えている。	○各地の方言に触れ、その響きやリズムを楽しもうとしている。（ワークシート）

6 本時の学習（3／4）

(1) 目標

おすすめの方言を使って、方言を楽しむクイズを作ることができる。

(2) 展開

過程	学習活動	(○) 教師の指導・支援 (◆) 評価
つかむ	1 本時の学習を知る。 ㊦ 方言を楽しむクイズを作ろう。	○前時に決めた方言と本時の活動の流れを確認する。 ○どのようなクイズを作るのか確認する。
考える	2 方言クイズを作る。 「〇〇〇の意味は何でしょう。」 「使っている場面の劇をします。」 ・クイズの台本を考える	○選んだ方言の意味や使い方、良さが伝わる場面を考えるようにアドバイスする。 ○台本は4つの会話で作ることを確認する。 ○クイズ作りの見通しをもてるように、第1時に教師が行ったクイズの台本を提示する。
学び合う	・作ったクイズにさらに方言を使う工夫を考える。 ・クイズを出題するときの役割分担をする。	○方言を使う工夫を事前に教師が示した台本を用いて確認する。 ○言葉の響きやリズムを確かめることができるように実際に声に出したり聞き合ったりさせる。 ○クイズの中で、第2時で自分が調べた方言や、他の人がおすすめしていた方言も取り入れるように促す。 ○台本の中に方言を使いたい調べていなかった場合は、タブレットを用いて調べて良いことを伝える。 ○問題を読む、寸劇をするなど、全員が出題に関われるように役割を分担させる。
		【10の学びの視点 ⑤共働的な学びの充実】
		◆方言の響きやリズムのよさを感じ取り、意見を出し合いながら方言クイズを作ることができる。【思考・判断・表現】 (ワークシート・発言) B 方言を口に出したり使ったりしながら、自分の考えを出し合い、よりよい方言クイズを作ろうとしている。 C 自分の考えを伝えることができていない児童には、友達の考えについてどう思うか言うように促す。
まとめる	3 クイズを出す練習をする。	○自分の役割だけでなく、全員が方言を含む台本を声に出し、響きやリズムを確かめながら練習するように伝える。 ○表情や動きなど、友だちに分かりやすいように工夫することを意識させる。
	4 できたクイズを紹介する。	○いくつかの班のクイズを紹介し、方言をたくさん使って楽しいクイズができていることを確認し振り返りにつなげる。 ○クイズの答えは本時には伝えず、次時に発表することを出題者と聞き手に知らせる。
振り返る	5 本時の学習を振り返る。 ・方言をたくさん使って楽しく活動できたかや、友達との交流で気付いたことを振り返る。 ・次時のクイズ大会について知る。	○聞き手には、方言の響きや場面を手掛かりに意味を考え、他の班の表現のよいところにも目を向けるように伝える。 ○振り返りでは、方言を使って楽しく活動することができたか、自分の考えを言ったり友だちの考えを聞いたりして活動することができたか具体的に振り返らせる。 ○方言の響きを楽しんだり、友達の考えを生かしたりした姿を具体的に取り上げ、学びのよさを共有する。